

明日と拓く

87
号



子供たちのために 「目に見えない財産」を守るPTA

全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会 会長
東京都立青山特別支援学校PTA 会長

茨田 一矢

令和3年度全知P連会長の務めさせていただく茨田一矢と申します。我が子は中学二年の男児です。昨年に引き続き、全国の子供たちのために精一杯務めさせていただきます。

まず、新型コロナウイルス関連肺炎で亡くなられた方々にお悔やみを申し上げます。今年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、全知P連の全国研究協議大会（北海道大会）の開催を中止いたしました。しかし、「つながり」というのは何もしなければ維持をすることができないという観点から、皆様の御協力をいただき、8月19日に「令和3年度全知P連Webセミナー」を開催いたします。全知P連としても積極的に模索し、会員相互の絆を深めてまいりたいと思いますのでよろしく願います。

以前、成人された強度行動障害のある方を特集した番組を見ました。強度行動障害は、知的、発達障害がある人の1%程度とされ、見守りが難しく、家族だけで孤立しがちです。支える家族の愛と苦悩の日々の生活は、涙なしでは見ることができないほど、切なさとも

どかしさでいっぱいの内容でした。我が子も、重い知的障害と強度行動障害に加え、身体障害もあります。見た目は割と普通なので、なかなかまわりからは理解されないのが現状です。先が見えない不安もたくさんありますが、子供の笑顔を見ると、番組の家族と一緒に、愛おしさがたまりません。この子のため、そして同じような悩みを抱えている仲間たちのために、何とかしたいと強く思っております。

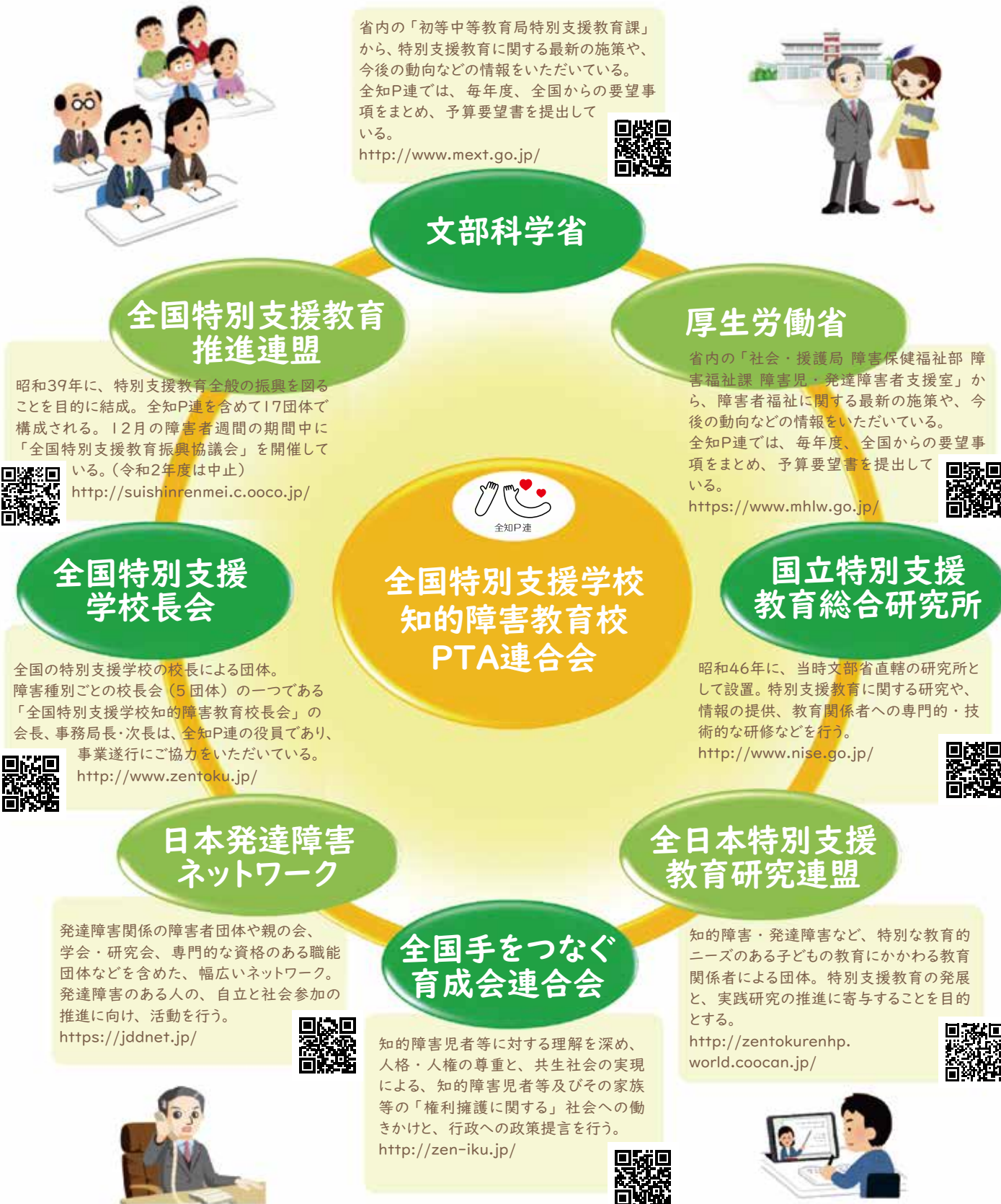
特別支援学校に通う児童や生徒の増加に伴い、教室不足が課題となる中、文部科学省は、教育環境の改善に向け必要な校舎の面積などを定める「設置基準」を、初めて特別支援学校にも策定することを決め、今年の5月に素案を公表しました。教室が不足するため、1つの教室を2つに分けたり、図書室を転用したりして授業を行う学校も出ています。から、長年、私たちの先輩方が要望してきたものです。抱える悩みは、昔も今も常に同じです。変えなくてはいけないというものは、個人の力だけでは限界があります。同じ悩みを抱えた、たくさんの方の思いを組織としてお

願いをし、前へ進めていただく事はとても大切なことです。子供を育て、成人した後も安心して暮らせるためには、学校や福祉施設などの地域社会とつながり、支え合うチームとして連携する必要があります。「何もしない」「不満だけを伝える」ということが目に入ることがありますが、信頼関係は「目に見えない財産」です。私たちもその財産を、もっと大きくする行動や心構えが必要でもあります。先日、全国特別支援教育推進連盟の理事会に出席させていただいた時に、文部科学省の方からお話がありました。施策を考える中でいちばんの原動力は、私たちの声であるということでした。「設置基準」もすぐに実施というわけにはいきません。現状を伝え続け、未来に向かって一緒に考える事をしたいです。

コロナ禍で、これまでとは異なる新しい日常、生活様式が変わりました。それぞれのPTAでも、従来のような活動ではなく、ICTを活用した新しいPTA活動をされていると思います。今後も頼りになる先輩方や各校の会長、関係者の皆さんと協力し、長年育んだ信頼と努力の積み重ねを大切にしながら、子供たちのために「目に見えない財産」を守るPTAと一緒に考え、取り組んでいきたいと思っておりますので、何卒、御理解と御協力くださいますようお願い申し上げます。

関連団体のご紹介

昭和42年の本会発足以来、関連団体の皆様とは、子供たちの知的障害教育の発展向上や福祉の充実に向けて、連携を続けてきました。現在まで、本会の事業の遂行に、あたたかいご支援とご協力をいただいています。今後も、子供たちの明るい未来のために、関連団体の皆様とさらなるネットワークを広げてまいります。



しなやかな心で、子供たちのために

全国特別支援学校知的障害教育校長会 会長
東京都立青峰学園 校長（本会 相談役）

山本 和彦

「VUCAの時代」という言葉、ご存じでしょうか。VUCAは「ブーカ」と読み、表1にある単語の頭文字を並べたビジネス用語で、社会環境が大きく変化し、将来の予測が困難になっている状況の意味する造語です。地球温暖化、超高齢化、AIの台頭、コロナ禍等に代表されるように、想定外が当たり前となった現代は、「VUCAの時代」と言われています。

Volatility = 変動性
Uncertainty = 不確実性
Complexity = 複雑性
Ambiguity = 曖昧性

（表1）

どんなに大変な状況にあっても希望を失わない、そんな力が人間には備わっているそうです。それは「レジリエンス」と呼ばれています。レジリエンスとは、「外からの衝撃や出来事で心が折れてしまうことなく、しなやかに回復する力」のことであり、まさに今、必要とされる非認知能力の1つなのです。非認知能力とは、テストで測ったり数値化したりできる能力（学力）を認知能力と言うのに対して、認知能力以外の自制・自律性、自己肯定感、他者への配慮、コミュニケーション能力などのことを指します。ひとつ前の学習指導要領における「生きる力」はまさに非認知能力の重要性を説いたものと言えるのかもしれません。

レジリエンスが高い人には、表2にある5つの特徴があるそうです。中でも「なんとかなる」という楽観性を鍛えることが大切なのだそうです。その昔、「鈍感力」という本が流行りましたが、まさにこれがレジリエンスにつながるのかもしれない。どんな物事にも二面性があり、悪い面があれば良い面もあるものです。ただ、悪い面が目立ちやすく、良い面を見つけれないだけなのです。「悪い

面もあるけれど、良い面もあるはず」と、物事をよく見てみましょう。きつと良い面を見つけれられるはずですよ。私の場合、オンライン会議が増えたおかげで、出張が激減し嬉しく思っています。まずは「まあいいか!」と、レジリエンスのスイッチをONにしてみましょう。

最後になり大変恐縮ですが、本年度、全知長会長を務めさせていただくことになりました。東京都立青峰学園校長の山本和彦と申します。どうぞよろしくお願いいたします。一昨年度より、全知長事務局長、事務局長として全知P連の活動に携わらせていただきましたが、今年度は、全知P連の相談役という大役を仰せつかりました。VUCAの時代、大変な時代だからこそ、何とかなる! 明日がある! という気持ちが大切だと思います。折れない、しなやかな心で、子供たちのためにともに頑張りましょう!

- ① 思考に柔軟性がある。
- ② 感情をコントロールできる。
- ③ 自尊感情が養われている。
- ④ 挑戦をあきらめない。
- ⑤ 楽観的である。

（表2）



北海道ブロック

＊北海道札幌高等養護学校

東北ブロック

青森県立森田養護学校
＊岩手県立花巻清風支援学校
宮城県立名取支援学校
秋田県立ゆり支援学校
山形県立鶴岡高等養護学校
福島県立大笹生支援学校

関東甲信越ブロック

＊日立市立日立特別支援学校
栃木県立今市特別支援学校
群馬県立しろがね特別支援学校
埼玉県立行田特別支援学校
千葉県立市原特別支援学校
神奈川県立みどり養護学校
山梨県立高等支援学校 桃花台学園
長岡市立高等総合支援学校
長野県小諸養護学校

東京ブロック

＊東京都立中野特別支援学校

東海北陸ブロック

富山県立高岡支援学校
石川県立明和特別支援学校
福井県立嶺南東特別支援学校
静岡県立掛川特別支援学校
愛知県立春日台特別支援学校
岐阜県立恵那特別支援学校
三重県立特別支援学校西日野にじ学園
＊三重県立松阪あゆみ特別支援学校

令和3年度の都道府県代表校はこちらです。
各都道府県の窓口となる学校です。
(＊印はブロック長 所属校)
一年間、よろしくお願いいたします。

【ホームページ】

全国特別支援教育推進連盟を通して
文部科学省・厚生労働省へ提出した
予算要望書等を掲載しています。

<http://www.zenchipren.jp/index.html>

近畿ブロック

滋賀県立草津養護学校
京都府立与謝の海支援学校
大阪府立たまがわ高等支援学校
兵庫県立神戸特別支援学校
＊兵庫県立氷上特別支援学校
奈良県立奈良東養護学校
和歌山県立たちばな支援学校

中国四国ブロック

鳥取県立倉吉養護学校
島根県立松江養護学校
岡山県立岡山西支援学校
広島県立廿日市特別支援学校
山口県立下関総合支援学校
徳島県立阿南支援学校
香川県立香川西部養護学校
＊愛媛県立みなら特別支援学校
高知大学教育学部附属特別支援学校

九州ブロック

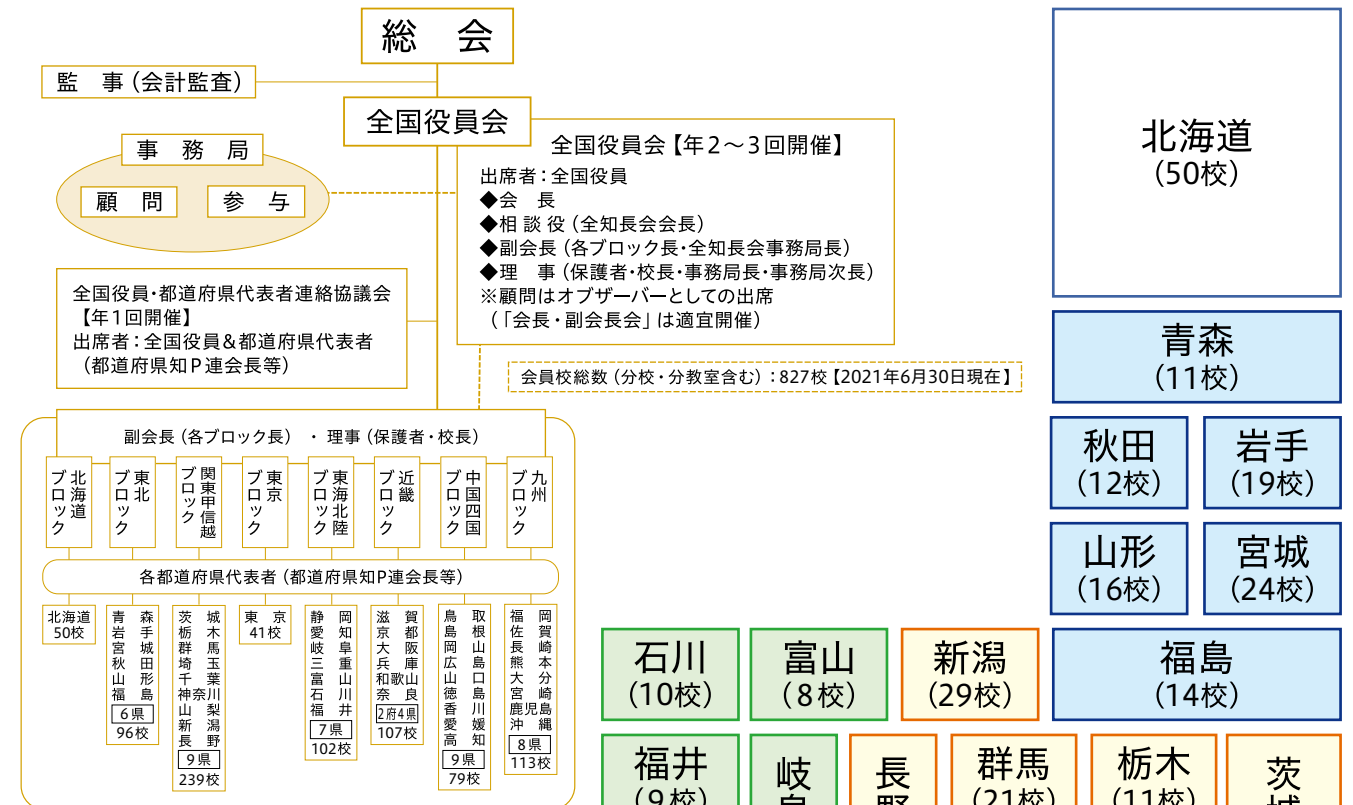
福岡県立特別支援学校 福岡高等学園
＊佐賀県立伊万里特別支援学校
長崎県立佐世保特別支援学校
熊本県立大津支援学校
大分県立新生支援学校
宮崎県立みなみのかぜ支援学校
鹿児島県立鹿児島高等特別支援学校
沖縄県立島尻特別支援学校

佐賀 (7校)	福岡 (24校)	山口 (11校)	島根 (11校)	鳥取 (6校)	兵庫 (28校)	京都 (15校)	滋賀 (15校)	石川 (10校)	富山 (8校)	新潟 (29校)	北海道 (50校)	青森 (11校)	秋田 (12校)	岩手 (19校)	山形 (16校)	宮城 (24校)	福島 (14校)
長崎 (15校)	大分 (12校)		広島 (15校)	岡山 (11校)		大阪 (32校)	奈良 (9校)	福井 (9校)	岐阜 (17校)	長野 (27校)	群馬 (21校)	栃木 (11校)	茨城 (19校)				
熊本 (19校)	宮崎 (9校)		愛媛 (7校)	香川 (5校)		和歌山 (8校)	三重 (12校)	愛知 (22校)	山梨 (7校)	東京 (41校)	神奈川 (55校)	千葉 (39校)					
鹿児島 (17校)			高知 (6校)	徳島 (7校)				静岡 (24校)									
沖縄 (10校)																	

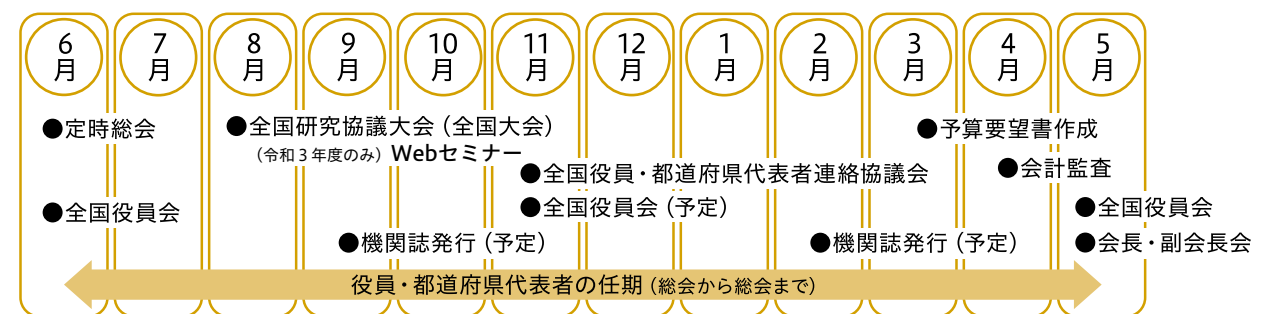
【機関誌】

・会報「明日を拓く」(会員全員配付)
・「全知P連だより」(各校2部配付)

全知P連組織紹介



例年の全知P連「事業スケジュール」はこちらの通りです。
ただし、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で大きく変更となっています。



●「調査研究助成事業」「防災関係」活動も行なっています。(HP参照)

調査研究助成事業ってなあに？

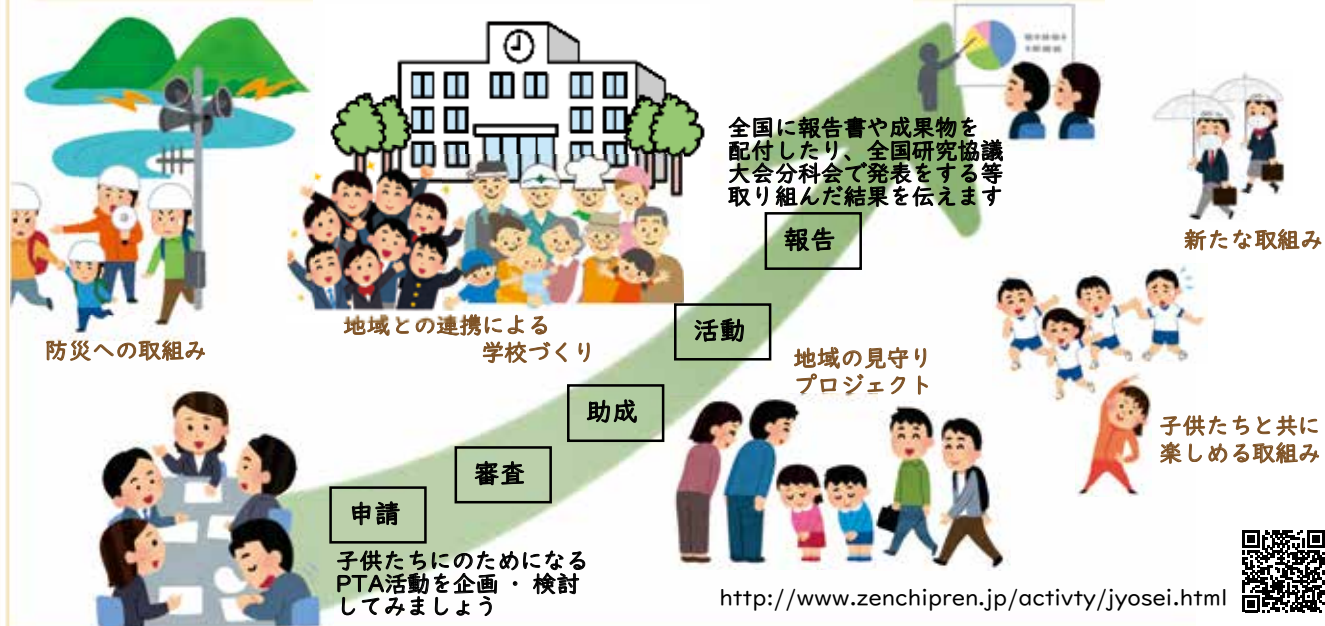
本会では、全国の各ブロック・各都道府県PTA連合会・加盟校の単位PTAによる、全国共通の課題、または地区の特別な課題等、ともに全国各ブロックにおいて参考に供するに足る内容を調査研究活動するための支援として、助成金を給付しています。

例年12月に県知事連会長校に募集についてのお知らせをしています。また、本会ホームページにも実施要項が掲載されますので、ご確認ください。（次回は令和4年度申請について）

特に調査研究テーマの制限はありません。募集期間は、1月～3月末。公募によって集められた申請内容を5月の「会長・副会長会」において審議し、3件までを選定いたします。

この事業はPTA活動の一層の向上に資することを目的としています。これまでに取り組まれた実践校の報告書は本会ホームページに掲載しておりますので、ぜひ、ご覧ください。

※令和3年度は新型コロナウイルス感染症によりPTA活動が制限されることが見込まれたため1年間中止となっています。



いま伝えたいこと！

令和2年末から令和3年6月にかけて、文部科学省と内閣府において、注目したい動きがありました。

文部科学省では、①「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現（答申）」、②「新しい時代の特別支援教育のあり方に関する有識者会議報告（素案）」、③「特別支援学校設置基準の制定（案）」が公表され、それぞれパブリックコメント（※）の募集がありました。全知PT連会長・顧問・事務局にて意見調整を図り、特別支援教育のさらなる充実を願った団体としての意見も提出しています。

内閣府では、①「災害対策基本法等の一部改正」があり、自ら避難することが困難な避難行動要支援者（高齢者・障害者等）の個別避難計画（避難支援等を実施するための計画）作成が市町村に努力義務化される、という規定が設けられました。

また、②「福祉避難所の確保・運営ガイドラインの改訂」があり、指定福祉避難所の指定促進・直接避難の促進等について記載されています。福祉避難所のあり方が大きく前進していますので、ご確認ください。

※パブリックコメントとは、行政機関が政令・省令等を定めたり制度の改正・廃止を行う際に、あらかじめ案を公表して意見を募り、集まった意見を考慮する仕組みのことです。

文科省①「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現（答申）」
https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf
 文科省②「新しい時代の特別支援教育のあり方に関する有識者会議報告（素案）」
https://www.mext.go.jp/content/20210208-mxt_tokubetu02-000012615_2.pdf
 文科省③「特別支援学校設置基準の制定（案）」
<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/PcmFileDownload?seqNo=0000219125>
 内閣府①「災害対策基本法等の一部を改正する法律」
 （概要）http://www.bousai.go.jp/taisaku/kihonhou/pdf/r3_01_gaiyou.pdf
 （施行通知）http://www.bousai.go.jp/taisaku/kihonhou/pdf/r3_01_sikoutuuti_ky.pdf
 内閣府②「福祉避難所の確保・運営ガイドラインの改訂」
http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/r3_hinanjo_guideline.pdf



文科省①



文科省②



文科省③



内閣府①
（概要）



内閣府①
（施行通知）



内閣府②

全国研究協議大会ってなあに？

全国研究協議大会（以下、大会という）は、本会の会員が一堂に会し、相互の健全な発展と協調を図るとともに、自立を目指した知的障害教育の向上、発展を促進することを目的として、昭和57年より実施しています。

令和2年度（沖縄大会）、3年度（北海道大会）は、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため、残念ながら中止となりましたが、今後も、大会テーマ「多様性を認め合い共に育む心のネットワーク～すべての子供たちの笑顔のために～」のもと、会員相互の研鑽と親睦を深める、大切な事業の一つとして取り組んでまいります。

よくあるご質問と合わせて、ほんの一部ですが、大会内容をご紹介します。

よくあるご質問（FAQ）

Q 大会は、いつ頃に開催しているの？



例年、8月後半の2日間（土・日）に開催しています。大会ごとに日にちが異なるので、各学校に配付される大会のご案内や本会ホームページで確認してくださいね。

Q 大会は、どこで開催しているの？



本会は8ブロック（北海道・東北・関東甲信越・東京・東海北陸・近畿・中国四国・九州）に分かれており、持ち回りで開催しています。来年度については、当番ブロックと検討中です。

Q 大会では、どんなことをしているの？



全体会（行政説明や提言・パネルディスカッション）、分科会、講演会等が行われます。下記の図・写真をご参照ください。また、過去の詳しい大会スケジュールは、本会ホームページ（頁下のQRコード）からもご覧いただけます。

Q 今までの大会の内容を知りたいのだけど・・・



近年は、それぞれの大会後に「全国研究協議大会報告書」を作成し、各学校に2部お送りしています。また、平成29年発行「創立50周年記念誌」にも、平成19年～29年までの大会概要と実行委員長の回想録を掲載しています。

大会1日目

全体会〔行政説明〕

文部科学省・厚生労働省から、障害児・者に関わる最新の施策や、今後の動向について、わかりやすく説明していただいています。毎回、ご提供いただいた資料を、参加者の皆さんに配付しています。



2018年 京都大会

全体会〔提言〕

講師の先生をお招きし、専門的見地からのご提言をいただいています。東日本大震災以降、防災教育や事業継続計画（BCP）策定など、災害時対応やPTAとしての役割について、継続的に研鑽を重ねています。



2016年 秋田大会

分科会

「地域連携」「生涯学習活動」「防災教育」「特色あるPTA活動」の4つの分科会に分かれています。PTAで、日々取り組んでいる、さまざまな活動を発表していただき、活発な意見交換を行っています。



2019年 栃木大会

大会2日目

講演会

全国各地で活躍している方々のご講演やトークセッション、児童生徒たちの演劇など、大会ごとにさまざまな内容を企画しています。

2016年 秋田大会
秋田県立能代支援学校
高等部の生徒による
ミュージカル公演



↑ 2017年 東京大会
「スペシャルオリンピックス日本」
名誉会長 細川佳代子様のご講演

懇親会（1日目）

全国の会員の皆さんと
意見交換・情報交換を
行います。

<http://www.zenchipren.jp/activty/taikai.html>



特別支援学校

知的障害教育校総合補償制度

(こども総合保険)

ってなあに?

知的障害教育校総合補償制度については、特別支援学校(知的障害教育校)で約3人に1人が加入して頂いており、大切なお子さまを1日24時間補償する制度でございます。学校でのケガはもちろん、学校が休みの日や登下校中のケガも補償します。例えば、通学中に転んでケガをした際はもちろん、パニックを起こして他人にケガをさせた場合、また友だちのメガネをつかんで壊してしまった際の補償もあり、本年からは新プランでのご加入の場合(昨年までにご加入の場合新プランへの切替必要)、新型コロナウイルス感染症を発病時に補償される内容となっております。

＊詳細につきましては、近隣の取扱代理店にご連絡の上、パンフレット(頁下のQRコード)のご確認をお願い致します。

年度実績(御報告)



知的障害教育校総合補償制度の加入者を対象とした過去1年間(令和2年4月～令和3年3月)に保険金が支払われた事故につき全体の傾向と事例をご案内いたします。

今回の集計結果では、2825件の事故に対して補償制度から支払われています。

全体の事故件数は減っておりますが1件あたりのお支払の保険金については引き続き高額化した状態が続いている点が特徴でございます。

生徒本人の傷害事故が917件、第三者への賠償事故が2198件となっております、前年度に比べ

傷害事故は11件増加、賠償事故が302件減少しております。死亡事故や後遺障害の認定による重症事故は12件発生しております。

また皆様から加入時のお問合せの多い自転車の事故については、本人の傷害事故24件、賠償事故14件となっております。

第三者への賠償事故については例年の通り「メガネ」「ガラス」を破損、「自動車」への損害、「パソコン」「携帯電話」等のIT機器の事故が多くを占めており、5万円未満の賠償事故が1404件と多くを占めております。

一方で保険金が10万円を超える事例は208件発生と昨年より増加傾向が続いており、さらに100万円を超える高額事例も3件発生しております。また新たな育英費用については補償開始以降1件のお支払いが発生しています。

傷害事故例

①歩行中に転倒し、入院を要した。

(補償金 約4万円)



②階段から転落し、通院を要した。

(補償金 約3万円)

賠償事故例

①友達の家テレビを破損させてしまった。

(補償金 約16万円)

②壁を破損してしまった。

(補償金 約5万円)

③歩行中に交通事故で負傷。

(補償金 約66万円)

④転落事故で負傷。

(補償金 約21万円)

賠償事故例(20万円以上)

①自転車運転中、他人に接触して怪我をさせてしまった。

(補償金 約599万円)

②ドアを破損させてしまった。

(補償金 約76万円)

育英費用事故例

①扶養者が階段より転落してしまった。

(補償金 500万円)

以上の通りでございます。

今年の総括としましては、全体的な事故の発生件数は昨年より減少しておりますが、支払総額は約1億4027万円となっております、1件1件の事故は高額化した状態が続いております。いつ何時自分が加害者または被害者になる可能性は十分にあります。

知的障害教育校総合補償制度は、生徒様のお体の補償はもとより第三者への賠償事故という観点からもご加入をお奨めいたします。

(文責 AIG損害保険株式会社 大村 誠)



<http://www.zenchipren.jp/activity/insurance.html>

編集後記

本誌がお手元に届く頃には、新型コロナウイルス感染症とうまく付き合っていくこれからの社会を、私たちは見出すことができているかもしれません。

新しい学校生活様式も、外出自粛でこもりがちな家庭環境も、子供たちを守るためには必要なのですが、多くの緊張感に負けないくらい楽しめる時間や機会も探してゆきたいものですね。

子供たちが笑顔でいられるよう、共に「あと少し」頑張りましょう。ご感想などいただければ幸いです。



【編集・発行】 全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会事務局
〒105-0012 東京都港区芝大門1-5-3 ヤマシタ芝大門ビル5階
TEL 03-3433-7651 FAX 03-3433-7652

【印刷】 株式会社エムシーアシスト

E-mail: info@zenchipren.jp
<http://www.zenchipren.jp/>